独立行政法人国立高等専門学校機構
鳥羽商船高等専門学校　http://www.toba-cmt.ac.jp

学校だより

Vol. 82
2015
SUMMER

平成27年7月発行　鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号　TEL 0599-25-8013

入　学　式

新入生オリエンテーション

新入寮生歓迎ＢＢＱ

- 校長式辞
- 主事からの言葉
- 国際交流
- 留学生自己紹介
- 学生活動の紹介
- 新設備紹介
- 学科紹介
- 新任教職員紹介
- スクールカウンセラーから学生の皆さんへ
- 教職員の人事異動
- 学校通信

校長式辞

平成27年度入学式・本科・専攻科（生産システム工学）

校長　**新田　保次**

入学許可を受け、名実ともに晴れて本校の学生となった本科、商船学科四十名、電子機械工学科四十一名、制御情報工学科四十二名の合計百二十三名、専攻科、生産システム工学専攻九名の併せて百三十二名の入学生のみなさん、誠におめでとうございます。本校を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

皆さんが入学された鳥羽商船高等専門学校は、非常に長い歴史のある学校です。本校の前身である鳥羽商船黌が、明治六大教育家の一人、近藤真琴先生によって一八八一年に創設されて以来、今年で百三十四年、そして一九六七年に国立高等専門学校となってからは四十八年になります。現在、国立高等専門学校は全国に五十一校ありますが、それらが二〇〇四年に独立行政法人国立高等専門学校機構という一つの大きな組織に束ねられてから十一年が経過しました。

高専は創立当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、十五歳の中学卒業生を受け入れる五年一貫教育を基本としつつも、大学編入、専攻科の設置、学校の再編統合などを進め、高等教育機関としての性格をより強め、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の育成に努めるようになりました。現在は、「進化する高専」として、次なる五十年に向けて様々な取り組みを始めているところです。

その中で、商船高専は全国に五校ありますが、他の高専と違った特別の使命を持っています。周りを海に囲まれた日本は、海上輸送によって必要な資源を輸入し、工業製品を輸出して経済を発展させてきました。最近は多くの製品の生産拠点が海外に移り、工業製品も輸入量が輸出量を上回る時代へと変化してきましたが、このような日本を出入りする物資の実に九十六、七パーセントは海上輸送によるものです。また、内航海運におきましても、特に貨物輸送の面で重要な役割を担っています。さらに、経済のグローバル化、産業技術の高度化が急速に進んでいる近年、工学系の分野においても、社会の要請に応えた高度の実践的技術者の育成が必要になっています。こういう情勢の中で、入学された皆さんには、将来の社会を担う人材として、大きな期待がかけられています。

本校では全ての学生が心すべき三つの教育目標を掲げています。

一つ、人間性豊かな教養人となること。

二つ、創造性豊かな技術者となること。

三つ、国際性豊かな社会人となることです。

言い換えれば、広い視野をもった優秀な技術者となって社会で活躍して欲しい。さらには、人間として、何が正しいかを判断して行動できる、社会に役立つ立派な人に育って欲しいということです。

本日入学された皆さんは、精神が柔軟で好奇心旺盛で、学んだことがどんどん吸収される年頃でもあります。しっかりと勉強してください。しかし、一方で、皆さんには、体育系、文化系のクラブ活動やロボットコンテスト、プログラミングコンテストなどに積極的に参加し、「よく学びよく遊ぶ」をバランスよく着実に行うことをお勧めします。これからの学校生活では、うれしいこと、楽しいこと以外に、苦しいこと、つらいことなどがいろいろ起こると思います。そのときは、今、入学式で皆さんが抱いている気持ちを思い出し、元気を出し乗り切ってほしいと思います。「初心忘るべからず」です。

先だって、読んだ本にこのような言葉がありました。『在宅ケアの不思議な力』などの著書で知られる秋山正子さんは、「看護の基本は、その人の持っている力を引き出すこと」だと言っていると。教育も全くその通りだと思います。私たち教職員は、皆さんの持っている力を引き出すよう頑張ります。あなた方もその期待にこたえ、自らを太く大きくしてください。皆さんのこれからの学校生活が、かけがえのない青春にふさわしい、充実した実りある時になることを祈って、お祝いと歓迎の言葉といたします。

学力向上と学びの定着

副校長・教務主事
石田　邦光

昨年の12月にご案内させて頂きましたように、国立高等専門学校機構では、全国立高専を対象としたモデルコアカリキュラム（ＭＣＣ）を策定しました。これは、全国立高専の学生が身に付けるべき到達目標と到達レベルが分野別（商船系分野は除く）に細かく示されており、これを満たすことを求めています。

今年度の新入生から導入した新カリキュラムは、ＭＣＣに対応しております。また、２年生以上も現行のカリキュラムをできるだけＭＣＣに沿うようにし、評価法などを工夫しています。社会に対して教育の質を保証し、説明責任を果たすためには、学生が自ら学ぶ習慣をもち、授業のみならず試験や課題の重要性と、それらに緊張感をもって取り組むことが肝要であることを認識し、学力の向上と定着につなげていくことが必須です。今年度から適用する進級制度は、こうした背景の基、本校が高専機構の一高専として発展していくために必要な改革であります。

高等教育機関（高専・大学・短大）では、単位制が採用されています。法律によると1単位に必要な授業時数が講義の場合45時間です。高専で採用している履修単位では、このうちの30時間を学校の授業で行います。また、高学年（特に専門科目）で採用している学修単位では、このうちの15時間以上を学校の授業で行えば良いことになっています。では、足りない分の15時間ないし30時間はどうするのか。これらは学生が自学自習で自らカバーしなければならないことになります。すなわち、もともと、高専における授業について行くには、学校の授業だけでは不十分です。そして、これが学生（高等教育機関で学ぶ者）に課せられた仕事です。

仮に、1日における授業が90分授業で3科目ある場合、単純計算で考えますと、履修単位であれば自学自習に45分×3で135分（2時間15分）必要になります。つまり、毎日2時間以上の自学自習をしなくてはならないことになります。自学自習では、宿題や課題も重要ですが、それよりも重要な学習は予習・復習で、これは学生が自ら、自分に合った方法を創意工夫して取り組まなくてはなりません。しかしながら、英語の業者テストの際に2年生を対象に実施した自宅学習時間のアンケートによりますと、平日においては約56％の学生が「ほとんどしない」と答え、休日では約73％の学生がやはり「ほとんどしない」と答えています。ちなみに、「2時間以上」と答えた学生は平日・休日合わせても2％程度です。

学校としましても、この現状を真摯にとらえ、種々の対策を講じていく所存です。保護者の方々には、教材購入等でご負担をお掛けいたしますが、何卒ご理解の上、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

充実した高専生活を過ごすために

学生主事
坂牧　孝規

学生主事室は、学生の皆さんが、自分の希望する就職・進学ができるように、厚生補導に関する支援を行っています。

学生の皆さんが、高専生活を総括する時期は、以外に早くやってきます。最初は4年生のインターンシップのエントリーシートを書く時、次は就職・進学で履歴書や入学願書を書く時です。それぞれの時期に、学生の皆さんは、高専生活で培った人間力や技術力を、自分自身の言葉で表現する必要があります。我々教職員は、学生の皆さんに、自信を持って自分の思いを表現できるような高専生活を過ごしてもらいたいと願っています。

学校は、学生の皆さんの「好奇心、探求心」が育成できるような環境整備に努めています。これには、日常の生活指導、学生会活動、クラブ活動、リーダーストレーニングなどの支援、各種講演会の企画、学科と連携したキャリア教育支援などが含まれます。学生の皆さんが、自らの適正に気付き、それを自分自身で伸ばすことができる支援に繋げたいと考えています。このためには、①入学時の目標（過去の視点）、②これまでに達成できたこと（現在の視点）、③卒業後として達成したいこと（未来の視点）の3つの視点で考える習慣が大切です。何事も始めるのに遅いということはありません。興味を持ったら挑戦してみて下さい。

現在、学生主事室が力を入れている活動の一つに「心のスキルアップトレーニング」があります。インターネットの普及により、日々、人間関係が複雑になっています。このような時代に、個性を尊重し、団体生活を送るスキルを身に付けるために、専門家によるトレーニングを受けることは有効な手段の一つです。積極的な参加を期待しています。

今後、学生会活動、クラブ活動などについても、鈴鹿工業高専との連携が期待できます。学生主体の創造的な提案がありましたら、気軽に学生主事室にお寄せ下さい。積極的に支援していきたいと考えています。

仲間づくり

寮務主事
嶋岡　芳弘

本年度4月から寮務主事を務めることになりました商船学科の嶋岡です。

本年度も暁寮周辺の桜が満開の中、寮に新しい仲間が加わりました。現在、暁寮の寮生数は約１９０名で全学生数の約3割になっています。この寮生のうち、約7割が商船学科、残りの約3割が電子機械工学科と制御情報工学科の学生です。

さて、寮務主事室としてはすべての寮生に、寮での集団生活を通じて寮生の協調性や自立性を養い、特に、仲間を思いやる気持ちを育んでほしいと願っています。

まず、1年生には、寮の生活や学校の生活に一日も早く慣れ、充実した寮生活、学校生活が送れることを願っています。寮には、集団生活を円滑に送るための決まりがあり、さらに、起床・就寝時間を始め、食事、風呂なども時間が決まっています。家庭での比較的自由な生活から切り替えて、集団生活を有意義に過ごしてほしいと思います。

次に、2年生以上の在寮生には、新年度が始まったことをきっかけに、新たな気持ちで学業・クラブ活動に取り組んでほしいと思っています。また、寮生活の先輩として、新入寮生にどのように接していくかが問われています。後輩から「あの先輩のようになりたい」とか、「あの先輩を尊敬している」とか、憧れるような、慕われるような先輩になってもらいたいと思います。さらに、新入寮生が充実した寮生活を送れるように暖かい気持ちで接し、新入寮生が「寮に入ってよかった」と思えるように導いてくれることを願っています。

最後に、十代後半の多感な時期を寮生として一緒に集団生活を経験した同級生・先輩・後輩の仲間関係は、非常に強い絆があり、一生の財産になると思います。良き先輩、良き後輩、そして親友と呼べる仲間ができることを期待します。

現在、寮務主事室と寮生会役員・世話係学生を中心に毎週1回、連絡会を開き、今後の寮のあり方、寮生活の改善について検討しています。寮生、保護者の皆さん、教職員の皆さんと協力しながら充実した寮生活が送れるよう努力していきたいと思います。

国際交流

イスタンブル工科大学引率

商船学科
瀬田 広明

昨年、トルコ共和国のイスタンブル工科大学（ITÜ）と学術交流協定を締結しました。その協定を基に、今年からITÜへの遊学プログラムがスタートしました。3月5～19日まで（現地2週間）、4名の学生（商船学科航海コース学生3名、専攻科生1名）を引率しましたので、その内容について報告します。

イスタンブルはローマ帝国、ビザンチン帝国、そしてオスマン帝国の帝都として約1600年にわたり栄えてきました。それゆえ、この街は多国籍の人達で溢れ、多様な歴史文化、自然景観を楽しむことができるので、年中多くの観光客で賑わい、世界でも毎年上位に入る観光都市です。

しかし、日本からトルコへの渡航に際しては、テロやイスラム過激派組織ISの影響などもあり、「行ってみたいけど少し怖い」「治安や現地の情勢は大丈夫かな」と不安感を持っている人も多いと思います。しかし、イスタンブルは世界的にも治安の良い街の一つとされています。シリアが隣国とは言っても、イスタンブルはシリア国境から1000km以上離れています。実際、ISの影響は見られず、治安に関しても私が生活していた時と全く変わりませんでした。日本人の大半は、テレビのニュースを観すぎれば過剰な不安感を招きますし、報道がやめば不安感が後退します。現にISによる外国人殺害のTV報道後、イスタンブルでは日本人観光客のみが激減したようで、日本人だけがISの情報操作に引っかかっている印象を持ちました。「百聞は一見に如かず」と言いますが、想像力を働かせ、報道に対する評価バランス保ち、現地でリスクの度合いを自分で判断することが大切だと再認識しました。

イスタンブルでは、このような国際情勢が絡むような事件に巻きこまれる確率を心配するよりも、スリや置き引き、ぼったくりなどの世界中どこでも起こりうるトラブルに遭わないように注意をすることの方が大切です。この手の軽犯罪は事前に心構えと対策をしておくことで、未然に防ぐことが可能です。

さて、第1回目となる本プログラムですが、その最大の特徴は非英語圏の大学生と一緒に英語（一部トルコ語）で講義を受け、海外の大学で単位認定を受けるというものです。今回引率した4名は全て航海コースの学生であったため航海系の講義を受講できるように現地でお願いしたところ、快く引き受けてくれました。設定された講義内容は、救命設備、海上交通法規、無線通信、海事英語および操船シミュレータによる実習を含んだBRM（Bridge Resource Management：船橋資源管理）でした。

救命設備の講義では、救命器具の有効期間や操作方法など、PSC（Port State Control：外国船舶監督）でよく質問されるような内容でした。無線通信ではデジタル選択呼出装置の取り扱い方法を、海事英語では航海日誌の記入方法に関する講義が行われていました。操船シミュレータによる実習では、海事学部の2年生と船橋チームを組みイスタンブル海峡（別名、ボスポラス海峡）南航のシナリオを実施しました。海図による船位確認では、日本で使用していない平行定規による作業を余儀なくさせられ、普段は容易な作業も言葉の壁と相まって戸惑い悪戦苦闘していました。しかし、教育言語に違いはあるものの参加学生は、いずれの講義や実習も本校で履修済みの内容だったので日を追うごとに理解できる講義内容が増えていったようでした。また、プログラムの後半に課外授業として、イスタンブル海峡および海上交通センターの見学を組み込みました。同海峡の見学では、航行する多種多様な船舶や狭く蛇行した水路をうまく操船する技術の高さなどに驚きつつ、沿岸の風景が織りなす過去と現在、そして豪華絢爛と簡古素朴な美しさに眼を奪われていました。海上交通センターでは管制官から交通の現状について説明を受けた後、自身の英語力を駆使して実際の管制要領や航行規則などについて積極的に質問していました。

学生達は語学力が未熟ながらも、トルコの歴史と文化に触れ、学生間で親睦を深めたこと、および海事に関する基本的な知識を有していることが認められ、海事学部の1年次に開講されている「Seamanship」2単位が認められました。また、ITÜの海事学部長からは、「このキャンパスで得た経験を今後に活かして下さい。そして、後輩や知人にトルコの魅力を伝えて下さい。また、これからの学生のためにも是非このプログラムを継続させていきましょう。」というお言葉を頂きました。

ところで、4名の学生は滞在中、ITÜの学生寮へ入寮し2週間の生活を送りました。ITÜの学生は英語が得意でない本校の学生に対して、日本人という興味深さと共に、同じ夢を持つ仲間として親切に接し続けてくれていました。昼夜、現地の大学生と接する環境を得たことで、トルコ到着当初はためらいがちだった英語での会話も徐々に増えていきました。会話は「語学力、英語力」というよりは、「如何に相手へ気持ちを伝えたいか」という気持ちを強く持つことが重要で、そのことによりコミュニケーションが成立していたように感じました。

英語の成績や語学力を理由に国際交流事業への参加を思いあぐねている学生こそ、本プログラムへ挑戦してみて下さい。普段耳にする日本語や英語とは違った言語を見聞きすることで新たな発見をしたり、苦手意識を克服したりと、自身で行動することで得た経験は、本やインターネットに書かれている事よりも、はるかに大きな事を学ぶことができますし、生涯にわたる財産になります。また、一方向からの情報に踊らされないためにも、様々な経験を重ね、自身で判断が下せる国際性豊かな社会人を目指して欲しいと思います。

一緒に授業を受けた仲間が
単位取得を祝ってくれました

トルコでの食生活

商船学科5年
大仲 一誠

今回、私たち4人は春休みにトルコで語学研修に参加してきました。

私は学校内での食事について皆様に報告したいと思います。

寝泊りは寮で行い、食事は主に学食を利用しました。鳥羽商船のように寮に食堂があるのではなく、寮生も学校の中にある食堂まで食べに行くことになります。朝食は無いため近くのスーパーで購入するなど各自で用意し、昼食と夕食とが食堂に用意されています。大まかなメニューとしてはワンプレートにメイン、サラダ、スープ、デザートでこの他にパンが食べ放題となっています。

私がこの学食を利用して、1番驚いたのが値段です。鳥羽商船の暁寮の食費代は1日およそ1000円ですがトルコで食べた学食は昼食2TL「トルコリラ」（1TL約50円）、夕食3TLで食事を取ることが出来ます。又、プリペイドカード方式なので食堂の中で機械にカードをタッチすることで料金が支払われる為、暁寮生のように欠食届けを出す必要も無く、とても便利なシステムだと思いました。ぜひ、この方式を暁寮でも取り入れていただきたいです。

人によって好みはあると思いますがトルコでは私達、日本人の口に合うたくさんの美味しい食べ物に出会えました。

トルコでの寮生活

商船学科5年
大仲 悌二

今回、ITÜでの研修プログラムに参加でき貴重な経験を得ることができました。トルコでの研修が始まる前、私の中には初の海外研修、加えて今までに実績のないプログラムであることから様々な不安がありました。しかし、現地での出会いと経験は私達を虜にし、まだ帰りたくないと思えるものでした。その中で現地学生との生活は刺激的なものでした。

私達は二週間、学内の学生寮の一室を借りて生活していました。一日の講義が終わり、寮に帰ると休み時間に約束した学生が部屋にやって来る、または学生の部屋にお邪魔して話をしたり写真を見たりして親睦を深めました。話の内容は、伝統や文化、音楽などのサブルカチャーからISのことまで多岐にわたり私達との考え方の違いを知ることができました。その他にも楽器を演奏してくれる学生もいました。中でもクラリネットを演奏し、私たちに優雅な音色を送ってくれた学生が印象に残っていて言葉は異なっても伝わるものがあると感じさせられました。

今回の研修では特に寮生活を通して海外の学生の考え方、物の捉え方に触れ、共に過ごすことで言葉の垣根を越えた人間関係を習得し、国際的視野を広げることができたと感じています。

ITUでの授業を通した学生との交流

商船学科5年
関屋 聖

私は、今回トルコのITUにおいて、海事学部の授業に参加し、操船シミュレータを用いた実習でITUの学生と共に操船を行うなどの交流を行いました。

私達が受けたITUでの授業のうち、多くはトルコ語で行われ、いくつかの授業は英語で行われていました。内容は本校の商船学科の講義内容より実践的なことが多かったです。私達は、操船シミュレータを用いた実習、COLREGなどの国際法規、救命艇の降下揚収、海事英語を用いた航海日誌の書き方などの講義、その他BRMの講義を受けました。例えば、BRMの講義の授業スタイルは、学生が積極的に授業に参加するような対話型の授業でした。

また、彼らは長期休暇の間に自ら外国の船会社に実習生として船に乗せてもらえるよう交渉するようで、生活に不自由のない程度の語学力を持っていました。そして、多くの学生は自国の文化に誇りを持ちつつも、外国に興味を示しているようで、日本の海運事情や本校に関しても多くの質問を受けました。

彼らの物事に対する姿勢は学ぶところも多く、私は、自分達も自国についてより深く学び、英語力はもちろん普段から他国でおきていることに目を向けて生活していくべきではないかと感じました。

イスタンブルの海上交通

海事システム専攻1年
大田 大

トルコへ渡航中、課外活動の一環としてボスポラス海峡を観光船で一周するボスクルーズへ行きました。ボスポラス海峡とはイスタンブルをアジアサイドとヨーロッパサイドに分ける海峡です。海峡の航海距離は約17マイル（約30キロメートル）。最も航路幅が狭い海域は約700メートルと伊勢湾の伊良湖水道航路よりも狭い交通の難所ですが、黒海から原油を輸出するルートとして毎日多くの船舶が航行する国際海峡となっています。

クルーズはボスポラス海峡の南口、金閣湾から出発して北上し、片道2時間の船旅となります。航行中、大小さまざまな船舶が航行する様子を見学することができます。今回の見学では大型のタンカーが最狭部で並走する船舶と接近する様子や航行中の車両船が漁船に対して汽笛を吹鳴している場面を見ることができました。特に印象に残ったのは、すべての船舶の航海士が双眼鏡を用いて前方確認や船橋のサイドで見張りを行っていたことです。改めて見張りをしっかり行い衝突などの危険を早期に発見することが大切だと思いました。

ボスポラス海峡の沿岸には綺麗な街並みや歴史的建造物が存在して、私たちは終始ワクワクしながら海上交通を見学することができました。

留学生自己紹介

電子機械工学科3年
ケフィン

私は、インドネシアから来た留学生のケフィンです。今年の4月から、M3の学生として勉強しています。授業はクラスメートの日本人と同じように、日本語で受けています。

私が日本へ来たのは、去年の4月でした。東京の日本語学校で1年間みっちり日本語を勉強しました。でも、専門用語はもちろん、方言や若者言葉などまだまだ知らない言葉がたくさんあります。僕の趣味は、スポーツと音楽を聴くことです。スポーツはフットサルが一番好きで、バドミントンと卓球も時々します。部活は、ロボコンです。M科の学生もI科の学生もいます。日本の好きな食べ物は豚骨ラーメンと寿司です。日本に来て最初の頃は生ものが苦手でしたが、段々慣れてきました。

皆さんは僕の国について知っていますか。首都はジャカルタです。食べ物は地域によって違いますが、日本人にとっては大体辛いと思います。観光地としてはビーチとスノーケリングがとても有名です。皆さんは「バリ島」という島を知っているでしょう。インドネシアは東南アジアの国で、日本のような島国です。島の数は1万7千個もあります。赤道に位置しているので、季節は2つしかありません。

これから、よろしくお願いします。

2年生でコンテストに参加して

制御情報工学科4年
濱口 堅太

制御情報工学科では3・4年生の実験科目として学内外のコンテストに向けた情報や組込みシステムに関する作品の制作を行っています。私自身、入学時からコンテストに向けて活動することは良い経験になると思っていましたし、今でも低学年から積極的に参加してほしいと思っています。

私は2年生の末に自分で作ったものを制御したいと思っていた私にピッタリのコンテストであった組込開発コンテストへの参加を決意しました。テーマとして、おもちゃの目線で自由に操作できたら面白いのではというシンプルな発想からラジコンにカメラを搭載して、ラジコン目線のドライビングシミュレータに決定しました。

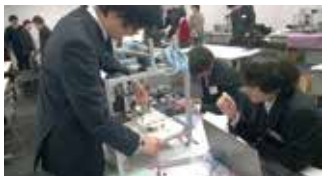
開発では多くの困難を経験しました。例えば、学内でほとんど経験者がいないプログラミング言語、授業でまだ習っていないモータの制御など習得すべき課題が多かったです。しかし、一つ一つ学び自分の考えたものがどんどんと形になっていくのを見ると自分が作っているという実感が湧いてきました。結果として全国高専から応募があったなかで、「優勝」というとても良い結果を残すことができました。

しかし、悔しかったこともありました。それは、自分としてはまだ改善するべき点が残っている状態にも関わらず、提出期限まで時間がなくなり、提出しなければならなかったことです。完成までの見通しが甘かったので、もっと計画をしっかり立てていなければと思いました。今後、もっといろんなことに挑戦して技術者としての時間感覚を磨いていきたいと思いました。もちろん、今年度も全国高等専門学校プログラミングコンテストに向けて活動をしています！

生産技術コンテスト

生産システム工学専攻2年
橋本 光世

私たちは昨年12月に初めて開催され7高専が参加した、沼津高専・オムロン株式会社 共同教育プロジェクト「東海・北陸地区高専を対象とする生産技術コンテスト（生技コン）」に専攻科1年生3名からなるチームで参加しました。このコンテストは工場の生産ライン制御で使われているコントローラ（PLC）で3軸ロボットとターンテーブルを制御し、ワークをターンテーブルの決められた位置に置く、積み重ねる、穴に入れるという3つの課題と自由課題でのタイムと精度を競うものでした。授業や研究の合間に3か月間の準備を行い本番に臨みました。当日は輸送時のトラブルで機器の調整に手間取ってしまい、学校では成功した課題がうまくいかないものもありましたが、無事私たち鳥羽商船チームは優勝することができました。



PLCは専攻科の実験や講習会で使っていましたが、今回のコンテストでは機械を制御することのむずかしさを改めて実感しました。機械を目標座標に移動させるだけなら許容できる範囲の誤差でも、物を掴んで離す動作や移動している物に合わせて動かす動作になると誤差が大きく影響し課題がうまくいかないこともありました。機械以外の要因で起こる誤差をも考慮して高い精度を保つのはとても難しかったです。また、チームで課題に取り組み競い合うという大変貴重な経験をすることができ、チームワークの大切さを学びました。この経験をこれからの学習や研究などにつなげていきたいです。

HackUコンテストに参加して

制御情報工学科4年
西浦 勇気

私が、Hack U KOSEN2014に参加した理由は二つあります。一つ目は、プログラミングが苦手であること。二つ目は、学生生活の中で何か一つでも成し遂げられたものがあれば、就職などに自信をつけることができると考えたからです。共に出場した友人である柴田遥規君と教官からの後押しもあり、アプリを作成していくことになりました。そして、柴田君の失恋経験から、男女共通の話題を作れるアプリが欲しいという話が出て、思い出アルバムなら話題に困らないのではないかと考えました。苦手なプログラミングではありましたが、周りの手助けもあり、なんとか形にすることができました。

発表当日は会場の雰囲気に驚き、かなり緊張していました。私たちの発表では、ユニークなプレゼンテーションで会場を盛り上げることができ、アプリのおもしろさを伝えることができました。審査員の方々の他にも会場にいた学生や教官方にも興味を持っていただき、デモンストレーションの時間にはアプリを使っていただき、「おもしろい！」「このアプリほしい！」などの声を聴かせてもらいました。実際に使ってもらって評価をしてもらうことは、改善すべき機能、もっと伸ばしていく機能などが明確にでき、アプリを作成していくうえでとても重要なことだと強く感じました。

結果は、課題解決賞という素晴らしい賞をいただきました。参加した理由であった、二つのことに自信をつけることができ、有意義な時間を過ごせました。

NI myRIO組込開発コンテスト2015準優勝

制御情報工学科5年
岩本 綾乃
片山 佳帆

NI myRIO組込開発コンテストとは、National Instruments社のNI myRIOという製品を用いて組込システムを設計・開発・製作するコンテストです。私たち2人は吹奏楽部に所属しています。4年生で行った創造実験では、吹奏楽で活かせるものを作りたいと思い「遠隔操作可能なチューナー」というテーマでシステム製作をしました。今回は、このシステムさらに改良してコンテストに参加しました。このシステムはユーザー支援を目的としており、一般のチューナーの機能に加え、移調楽器ごとの音階を表示することができます。また、別ディスプレイを使用して、演奏者以外でも画面を見られるようにしました。コンパクトで持ち運びもしやすいことも長所になっています。

コンテストの提出締め切りが春休み中だったので休み中も開発のために2人で学校に通い続けました。その甲斐もあって準優勝をいただきました。実用化にはまだまだ改善すべき点はたくさんありますが、将来的にはもっといいものを作り世の中に出していきたいです。今回のコンテストに参加でき、普段の学校生活では得ることのできなかったものをたくさん得ることができました。私たちは今年で学校生活も終わりなので最後にいい思い出を作ることができてよかったです。そして、なによりも応援してくださった方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

小水力発電アイデアコンテストに参加して

電子機械工学科5年
小山 大貴

3月21、22日に愛知県豊田市旭地区で行われた「第4回小水力発電アイデアコンテスト」において、鳥羽

商船高専のチームは発電量45Wを記録し、「技術賞」を受賞しました。

このコンテストは、小水力発電装置を制作して実際に用水路や小川に設置し、発電量や効率を他高専と競い合います。発電するだけでなく、発電した電気の使用用途のアイデアや完成度を地域の人に評価してもらうので、一般の人達にいかにして自分たちの考えを伝えるかも重要になります。

今回のチームは、「増速機」を用いた「可変速水車」という発電装置を制作しました。この装置は、マニュアル車のように増速機を変速することで流れている水量に適した増速を行い、効率よく発電することができる特徴を持っています。現地に着いて装置を設置するときは、増速機がとても重く、水車も大きかったため、設置するのが大変でした。しかし、その重い増速機のおかげで効率よく発電でき、他高専の2倍以上の発電量を記録することが出来ました。この発電量と増速機が評価され、技術賞を受賞することができました。

このコンテストに参加し、同級生だけでなく他学年メンバーと協力してひとつのシステム制作するなかで、メンバー同士の絆がとても深まりました。また、実習で使わなかった工作機械を使い、技術力も高まりました。自分で設計した水車が形になり、実際に回って発電できたとき、とても嬉しかったです。地域の人たちとも交流ができたのも、良い経験になりました。

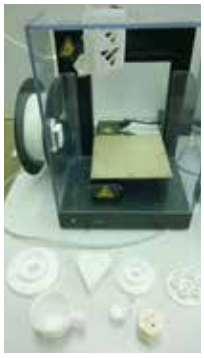
新設備紹介

3D-CADと3Dプリンタによる造形設備

電子機械工学科教授　**宮崎 孝**

平成25年度に本校でも、近年話題となり価格も安くなっている3Dプリンタが、補正予算にて2台導入されました。溶かしたABS樹脂を積層していくタイプで、OPTのUp Plusという機種です。積層ピッチが0・15㎜で、140㎜×140㎜×130㎜程度の大きさまでのものが、かなり精巧で丈夫に製作できます。ただし、日進月歩の分野ですので、自動補正機構がないなど古い部分も目立ってきました。また、思ったより造形に時間がかかります。

3Dプリンタというと簡単に思ったものが形にできると思うかもしれませんが、設計する手段も必要です。そのためのツールで、3Dで設計が直接できる3D-CADのSolidWorksも演習室に導入されています。これで、機械工学を専攻していない学生でも、比較的簡単に造形できる環境が整いました。ただし、3D-CADを使うためには少し学習が必要で、3Dプリンタを使うにも少しコツがあります。



導入後、本科、専攻科の授業・実験や研究、コンテストで活躍しています。特に、昨年度のロボコンでは、SolidWorksでロボットの設計を行い、3Dプリンタで大玉を作り大活躍しました。現在3Dプリンタは、3号館に置いてありますが、旧白菊寮食堂を改修して新設された「ものづくり工房」に移す予定です。実際に使って何かを作ってみたいという方は、私か電子機械工学科の教員に申し出てください。3Dプリンタコンテストも開催されていますので、ぜひチャレンジしてみてください。

蒸気ボイラー実験装置の紹介

商船学科機関コース准教授　**渡辺 幸夫**

平成25年度に蒸気ボイラー実験装置代替の予算措置がなされ、平成26年3月末に同機器が納入されました。今回導入されたボイラーは（株）IHI汎用ボイラー製で、A重油を燃料として1時間あたり1トンの蒸気を発生させることができるものです。このボイラーは三級海技士【機関】・第一種船員養成施設の必要設備であり、取扱いや性能計測の実習と実験を行うために導入されました。蒸気ボイラーは、蒸気タービンを主機として使用する船舶においては主ボイラーとして、内燃機関を主機として使用する船舶においても補助ボイラーとして、ほとんどの船に設置されているものです。したがって機関士には、座学だけでなく実習でのボイラーの取扱いの経験が求められています。なお、旧型から新型ボイラーへの大きな変更点としては、計測機器のSI単位系への統一と計測システムの導入が挙げられます。以前のボイラーは40年以上前に導入されたもので、ほとんどの計器が重力単位という古い単位系表示だった為、現在の標準仕様であるSI単位系へ統一しました。また、新しく導入した統合計測システムによって主要計器の温度や圧力の同時計測を可能にしました。この計測システムの導入により、運転中の状態把握が用意になり、実習だけでなく研究用途への展開ができると考えています。この機器の取り扱い導入から現在までに1年以上の期間が経過しましたが、学生実験等で頻繁に運転されています。

ものづくり工房（旧白菊寮食堂）の紹介

電子機械工学科助教　**脇坂 賢**

突然ですが、高専ロボコンの出場ロボットの大きさってご存知ですか?今秋に行われる高専ロボコン2015のルールでは、出場ロボットは縦横高さ1600㎜以内、これはワゴン車1／2台相当の大きさです。ロボコンや小水力発電コンテストなどのように、大きなロボットや装置を作るためには、その組み立てスペースや動作確認のためには広いスペースが必要となります。さらに、高専ロボコン2015の競技フィールドの広さは13m×11mとなり、バスケットボールコート半面分、本校で一番大きな教室である視聴覚教室とほぼ同じくらいの広さが必要になります。

これまで、これらのコンテスト出場のための製作を、旧白菊寮食堂を使って行っておりましたが、築50年経過の老朽化から、昨年秋から冬に耐震改修工事が行われ、それにあわせて内装も改修されました。元々食堂であったという構造から、かなりの広さの空間です。

早速、先の3月に行われた小水力発電コンテストの出場機の組み立てを皮切りに、現在は、2015年度の高専ロボコンに向けて、同好会と卒研それぞれのチームが利用しています。また、3Dプリンタなどの機械の一部もここに集約することを検討しており、まさに「工房」として、PBL教育や各種コンテストに活用できるよう、現在準備中です。

近年、プログラミング系のコンテストの活躍が目立っておりますが、それに負けじと、ロボコンをはじめとした、各種コンテストでの学生の活躍を期待します。

商船学科の紹介など

商船学科長・機関コース主任
伊藤　友仁

全国に高専は51校あり、そのうち商船学科を有する高専は5校です。本校の商船学科は、明治14年（1881年）に設立されて以来、一番長く優秀な船員を輩出してきました。以下、商船学科について、海運界の動向を含め簡単に紹介します。

商船学科の就業期間は5年半で、工業系学科より半年長くなっています。3回の大型練習船実習が2年次の3月（1か月）、4年次の後期（5か月）および6年次の前期（6か月）と、合計12か月間行われることもその理由の一つです。また、商船学科は国土交通省が認定した船員養成機関で、外航船員に必要な3級海技士の資格を取得できます。練習船「鳥羽丸」を管理し、学生の教育に活用しています。

最近の海運分野における、商船の技術動向の一部を紹介します。異業種ですが、自動車は内燃機関と電気モーターとのハイブリッド化により大幅な燃費向上を達成し、エコ化という大革命が起こしました。海運業界においても、最近スーパーエコシップが登場し、機関のエコ化のみならずあらゆる航海情報を活用して効率良く船を動かす試みが始まっています。これは未だ試験段階ですが、いずれは商業ベースで実用化されると思われます。今後到来する海運のイノベーションに対し、商船学科では将来の技術革新に通用する船員を養成しています。本校が実施している、グローバル化を含む種々の教育プログラム、および今年度の新入学生から適用された新しいカリキュラムは未来の海運界を見据えて作成されています。今後、どんな船の技術革新が起こっても、学生が本校で海事技術者としての基礎技術をしっかり身に付けていれば対応できるものと確信します。

最後になりますが、商船学科の学生にお願いすることは、まず社会人として必要な豊かな教養を身に付けていただきたい。特に低学年から、基礎科目（英数国理社など）を、毎日勉強する習慣を身に付けてほしいと思います。同時に、課外活動で体を鍛え、元気に毎日を過ごすことが一番大切です。それが将来海運界へ羽ばたくための条件となるでしょう。

商船学科航海コースについて（教育の特徴）

商船学科航海コース主任
片岡　高志

商船学科は三年生進級時に、航海・機関の各コースへ分かれます。三級海技士の第一種養成施設として、航海コースを選択する学生の殆どが海上就職を希望し、多くは外航船の航海士を目指します。中には商船系の大学への編入学、本校専攻科への進学を希望する者もおりますが、大学卒業後または専攻科修了後は海上就職を希望する場合が殆どです。本稿では、航海コースの船員養成教育の特徴を紹介したいと思います。

商船学科航海コースでは、教室での授業（座学）は勿論ですが、実践的な教育を重視しております。その実践例が、操船シミュレータ、レーダ・ARPA（自動衝突予防援助装置）シミュレータ、ECDIS（電子海図情報表示装置）シミュレータ及びGMDSS（全世界海上遭難安全システム）シミュレータ等を利用した教育・訓練です。これらのシミュレータを用いた実習は、国際条約（STCW条約）や国内法（船舶職員及び小型船舶操縦者法）で義務化、またはこれを実施することが強く推奨されており、本校もこれに則して実践的な教育を実施しているところです。更に、校内練習船「鳥羽丸」を用いた実習により、総合的な訓練を行っております。「授業」、「シミュレータ」及び「練習船」、これら三者を旨く融合させながら商船学科の教育目標でもある「船舶の技術革新に適応した船舶の運航技術者」の養成を目指しております。

実践的な教育を心掛けている航海コースですが、最後に就職試験に関して述べておきます。今年度より日本経済団体連合会（経団連）の就職・採用活動時期の見直しに伴い、大手の外航船社は採用試験を八月以降に実施するようになりました。実質的には受験機会が減少することになりましたので、例年に比べて厳しくなったと思われます。外航船社を希望する学生は、海技試験・無線関係等の資格試験の合格は当然のことながら、SPI試験等へのチャレンジ、語学力（英語）の向上等一層のスキルアップを目指して勉強してください。

就任挨拶と学科の紹介

電子機械工学科長
古森　郁尊

本年度から電子機械工学科の学科長となりました古森です。よろしくお願いします。昨年度までの学生相談室長と比べ、仕事内容の違いに今さら戸惑っています。

学科長となり、本学科では何を心がけるのか改めて考える機会にもなりました。電子機械は、五感に対応するセンサーや体力に対応するエネルギー源、そして手足に対応する機械仕掛け、情報処理を行う頭脳に対応するコンピュータなど、全てを組み合わせた装置と言えます。本学科は、その装置の開発・設計・保守ができる基礎知識を修得するための学科です。加えて、目立たないけど「あたりまえの日常を支えることに誇りを持てる人材」・「自分が開発・設計した装置が人とどのように接するかを想像できる人材」の育成を心がける学科として学生と向き合いたいと思っております。一方、国際化の名のもと、異文化の理解ができる高専生も求められてもいます。本学科でも国内外のインターンシップなど学生にいろいろな文化を学ぶ機会を提供しています。

次に、進路についてです。本学科へは今年度も、電機、工作機械、エネルギー、自動車、交通など幅広い業種から求人を頂いています。幸いなことに就職を希望している学生数を遥かに上回る求人数です。企業の中には、本学科とわが社のイメージが一致しており求人に来ましたと言って頂ける企業もあります。また、例年2割弱の学生が大学や専攻科へ進学しています。ここで、学生諸君へは、就職活動や何気ない日々の学校生活をあたりまえと思わず、常に身近な人へ感謝の気持ちを持ってくださいと言いたい。（反抗期の学生にはちょっと抵抗があるかも、でもそのうち解る！）

電子機械工学科では、『モノづくりに対する好奇心』と『学生が自分で考えること』を大切にしながら、また、自由に意見交換ができる雰囲気のもと、毎年2チーム参加するロボットコンテストなどの各種競技や研究・地域貢献活動に取り組んで行きたいと思っております。

制御情報工学科の紹介

制御情報工学科長
江崎　修央

制御情報工学科では、本年度より学生の能動的な学びを支援するために、ＰＢＬ型の学習を多く取り入れております。ＰＢＬとは、Project Based Learning の略称で、学生自らが課題を設定し、その課題を技術的に解決するためのシステムを設計し、実装、評価を行います。自分たちの身の回りの仕組みをより便利にしたり、地域の困ったことを解決したり、世の中の安心・安全をサポートする仕組みなど、多くのテーマに取り組んでいます。

この取り組みでは、学内での発表会や競技大会で技術力を競い合うことはもちろん、学外コンテストへ出展し対外的に評価されるかを確認していきます。このような取り組みでは、個人の力ばかりではなくチームとしての力も必要になってきますので、技術力はもちろん、人間力についても、高いレベルを目指して努力して貰いたいと考えています。

このような新しい学習形態を加速させるため、3号館1階の機械制御実験室を始めとして、3階の回路通信実験室、4階のＣＡＤ／ＣＡＭ実験室を改修しました。グループワークに適した机配置、ノートパソコンや無線ＬＡＮなどＩＣＴ機器の整備を行っています。授業時間中はもちろん、放課後も賑やかに学生が利用している光景をよく見かけるようになりました。

高等専門学校の学生は、比較的内向的で自分に自信がない人が多いように見受けます。しかしながら、企業をはじめ、大学や地域からすると優秀な人材の宝庫です。自信を持って卒業し、社会に貢献できるように、是非このようなチャンスを活かしてください。

最後に平成26年度の学外コンテスト参加状況と結果をご紹介いたします。

・全国高専プログラミングコンテスト　自由部門優秀賞（準優勝）、課題部門（特別賞（3位相当）
・パソコン甲子園　モバイル部門　ベストデザイン賞
・起業家甲子園　ＴＢＳイノベーションパートナーズ賞
・Hack U KOSEN　課題解決賞
・myRIO 組込開発コンテスト　準優勝
・ImagineCup 日本大会　ファイナリスト

一般教育科目について

一般教育科長
冨澤　明

本校の一般教育においては、技術者としての基本的な資質と専門科目を学ぶための基礎学力を養うため、次の目標を設けています。

一、健康で教養豊かな社会生活を送るための基礎的な力を培う。
二、専門科目を学ぶための基礎的な力を培う。
三、多様な文化に目を向け、国際社会で活躍できる基礎的な力を培う。

本校の学生は、人文・社会系科目、自然科学系科目、保健体育、芸術及び外国語という広い分野にわたり、高等学校のレベルから大学の教養課程のレベルまで、5年間の一貫教育のもとで一般教育科目を履修します。そして今年度は、14名の常勤教員と12名の非常勤講師とで科目を開講しています。

新しい教育課程への移行が、今年度の入学生から始まっています。今後5年間をかけて、学年進行で新課程に切り替わります。新教育課程は、全国の高専における共通の学習項目を定めたモデル・コア・カリキュラム（ＭＣＣ）に準拠しています。一般教育科目の学習内容が大きく変わるものではありませんが、特に自然科学系の科目では、専門科目と連携して内容が考慮されたものになっています。また、新課程への移行にともなって「一般基礎教育」科目が新設されました。この科目は、学生が個々の将来を自身で設計するための基礎力を培う部分と、英語、数学、理科等の基礎学力を培う部分とで構成されていて、1年生の1年間と2年生の半期で学びます。

一般教育科では、学生が自らの意志で学力向上に取り組む学習の、さらなる推進を図っています。学びに終わりはありません。自己を高めるための学びを自身の意志で日々実践することを、学生の皆さんに期待します。

専攻科の紹介

専攻科長
宮﨑　孝

本校専攻科は、商船系の海事システム学専攻と工業系の生産システム工学専攻の2専攻からなります。2年間の教育課程を修了し、学位授与機構の審査に合格することで、四年制大学を卒業したのと同等の学位を取得することができます。

この学位の新しい審査方式が始まります。申請の結果、海事システム学専攻では商船学の区分、生産システム工学専攻では電気電子工学と情報工学の区分で新しい方式により学位審査を受けることとなりました。学生は必要単位を修得し特別研究の簡単な計画書と報告書を提出することで学位が授与されることになり、より特別研究に集中できるようになりました。

特別研究だけではなく、実験実習も実践性や創造性の育成に重要な役割を持っています。生産システム工学専攻では、新しいＰＢＬ型ＦＡシステムの実験が二年目となります。生産現場で使われる本格的なＦＡ用の制御器であるＰＬＣを利用し、植物工場の完成を目指し実験を行っています。技術向上のため、制御機器メーカであるオムロン（株）から講師を招き、講習会を何回か開催しています。また、この講習会には鈴鹿高専の学生も招待し、連携を深めました。現在は実際の植物の生育に至っていませんが、別稿で紹介するように本校専攻科の学生が生産技術コンテストで優勝するなど成果が上がっています。

今年度より就職活動の時期が遅くなっているため、現在が就職活動の真っただ中となっています。時期の変更による混乱が予想されるため、今年度の専攻科の学力入試は前期日程と後期日程の2回行うこととしました。入試の時期が遅くなり機会が増えていますので、進路に迷った場合は、専攻科への進学もぜひ検討してください。ただし、学力入試の受験には、ＴＯＥＩＣの事前受験が必須となりましたので、注意願います。

入試制度の以外にも、本科のカリキュラム変更に合わせて専攻科のカリキュラムの変更も検討していく予定です。

新任教職員紹介

商船学科機関コース
一等機関士
山野　武彦

4月1日より、母校鳥羽丸一等機関士を務めさせていただくことになりました、山野武彦（やまの　たけひこ）です。私も平成10年度（商船学科機関コース27期）の本校卒業生で、卒業後は、内航のタンカーやLPG船をはじめ瀬戸内のカーフェリーや外国航路の客船に機関士として乗船勤務してきました。また、数年間ですが陸上勤務も経験し、船とは全く関係のない大学に通っていた時期もありました。少し寄り道はしていますが、今般御縁があって17年振りに母校に戻ってまいりました。

振り返れば、これまでの船員生活で様々な事故を経験し、随分失敗もしてきました。

九死に一生を得たこともありました。私はこのような経験や失敗を学生に伝え、他山の石として自分を磨いてもらえれば、私の数々の失敗も決して無駄ではなかったと思っております。

これからは鳥羽丸一等機関士としてこれまでの経験をもとに鳥羽丸の安全運航はもちろんのこと、一人でも多くの学生が機関士として第一線で活躍できるよう、より実践的な事をより分かりやすく説明していこうと心がけていきます。

また、私自身まだまだ駆け出しなので、さらなる知識と技術の習得に邁進していきたいと思います。これからよろしくお願いします。

電子機械工学科
守山　徹

本年度4月から電子機械工学科の助教に着任いたしました守山徹と申します。私は一昨年に大学院博士課程を修了し、1年間名城大学の共同研究員として研究を行ってきました。社会に出てから日が浅く、教員としてだけでなく社会人としてまだまだ未熟者でありますが、目標に向けて精一杯取り組んでいきたいと考えています。

研究は、圧電セラミックスと呼ばれる電気を加えると伸び縮みをし、力を加えると電気を発生する性質を持つセラミックスの非鉛化を目的とした新規材料の創製を中心に展開してきました。この圧電セラミックスはセラミックス製の包丁やハサミなどと違い、目に見える場所に使用される事が少ないですが、圧力センサやジャイロセンサなどの主要部品を担っており、電子製品の高性能化、高機能化を促してきました。今後、さらに研究を進め、世界中を驚かす性能を持つ材料を開発出来たらと思います。

私は出身が愛知県であり、鳥羽市には幼い頃に数回程度しか訪れたことがありませんでした。さらに、普通科高校出身のため高専のことは何も分からず、不安を感じることがありました。鳥羽商船に赴任してみると、自然が豊かであることを感じ、学生が学業に専念できる環境が整っていると思いました。挨拶などの礼儀が出来ている学生が多く、着任直後の不安を和らげてくれました。さらに、教職員の皆様からの丁寧なサポートにより、環境に順応しつつあります。学生の模範となる教員を目指し、学生の技術者としての力を高めていけるように尽力を尽くしていきます。どうぞ宜しくお願い致します。

テクノセンター
清重　康司

平成27年3月1日よりテクノセンター技術職員として勤務することになりました。

私は愛媛県の新居浜高専専攻科出身です。同じ高専でも、新居浜と鳥羽、学生と技術職員と、当時とは土地・立場の違いがありますが、学生時代を思い出す雰囲気を感じ懐かしく思います。

卒業後は家電メーカに勤め、デジカメ、ムービー、リアプロジェクションTV等の映像信号処理に携ってまいりました。途中、会社が医療機器メーカーへ舵をとったことにより、その後は内視鏡手術のための2Dおよび3Dディスプレイの映像信号処理設計と画質の追い込み、また、実際に使用される手術室での臨床立ち合いを経験してきました。これからは、18年間ものづくりの現場にいた者として、私の企業経験が学生の皆さんに役立てればと考えています。

テクノセンター技術職員として、学生の皆さんと直接関わることが多い実験実習の中で少しでも伝えるよう努力していきたいと思っております。

特に希望することとして、学生の皆さんには、社会に出る前に「講義で理論」、「実験・研究での経験」を身に着け、しっかりした武装（社会に出る前の基盤づくり）をし、社会に出て活躍してほしいと思っています。

また今までと違う環境にいるため教職員、学生の皆さんから日々新たな刺激をもらっています。私も皆さんに刺激をあたえれるよう努め、互いの刺激により学校全体をよりよい雰囲気にするよう、お互い頑張っていけたらと考えます。どうぞよろしくお願い致します。

スクールカウンセラーから学生の皆さんへ

宗田　美名子

こんにちは。鳥羽商船スクールカウンセラーの宗田美名子です。

皆さんとは、何度か講演などでお会いしていると思います。

その時お話した内容、覚えてくれていますか？

生き生き学生生活を送るために

1あわてずに一呼吸
2だれかに相談しよう
3こころのつぶやきをしなやかに
4助けあおう

が大事だとお伝えしました。

どうですか？実践してくれていますでしょうか。この4つは社会人になったときも役立つスキルです。ぜひ、この学校にいる間にマスターしておいてくださいね。

さて、カウンセラー室は、何をやるところと皆さん思っていますか？

「悩んでいることを話しに行くところ」
「こころの病気になった人が行くところ」
「落ち込んだり、腹が立ったときに話してすっきりするところ」などなど

いろんなイメージがあると思いますが、今まで来てくれた学生の人たちは「将来のために自分の性格を知っておきたい」「人と話すのが苦手だから、大人と話す機会を多く持ちたい」
「ちょっと疲れたから、お茶飲んで、一息入れようっと」「心理学に興味があるから、友達といってみよう」など、結構気軽に来てくれています。

カウンセラー室は、私以外にも、もう一人のカウンセラーの先生や精神科医の先生も来てくれています。

保健室の先生に伝えて、気軽に予約を入れてくださいね。お待ちしています。

教職員の人事異動

（平成27年3月1日付け）
○採用
テクノセンター技術職員　清重（きよしげ）　康司（やすし）

（平成27年3月31日付け）
○定年退職
藤田　稔彦（校長）
伊藤　文雄（商船学科教授）
竹内　和彦（商船学科准教授（鳥羽丸機関長））
木下　利一（テクノセンター技術専門職員）

○退職
鈴木　秀司（商船学科准教授）
宮本　潤示（電子機械工学科助教）
大西　裕子（総務課財務・経理係長）

○雇用期間満了
水野　逸夫（電子機械工学科嘱託教授）
永野　重隆（制御情報工学科嘱託教授）
乾　　勉（テクノセンター再雇用職員）
中田　絵美（学生課学生生活係技術補佐員）

○転出
名古屋工業大学経理課長
← 前田　輝伸（総務課長）
三重大学学務部学生サービスチーム副課長
← 研屋　元弘（総務課課長補佐）
三重大学学務部入試チーム副課長
← 喜井　健二（学生課課長補佐）

（平成27年4月1日付け）
【教員】
○昇任
商船学科　教授　小川　伸夫
商船学科　教授　窪田　祥朗
制御情報工学科　教授　出江　幸重
制御情報工学科　教授　江崎　修央
一般教育　教授　古森　尚子
商船学科　准教授（鳥羽丸機関長）　大野　伸良
商船学科　准教授　小島　智恵
制御情報工学科　准教授　都築　啓太
一般教育　准教授　内村　佳典
一般教育　准教授　三重野雄太郎

○採用
商船学科　助教（鳥羽丸一等機関士）　山野（やまの）　武彦（たけひこ）
電子機械工学科　助教　守山（もりやま）　徹（とおる）
商船学科　特任教授　伊藤　文雄

（平成27年4月1日付け）
○併任等
校長　新田（にった）　保次（やすつぐ）
副校長　石田　邦光
寮務主事　嶋岡　芳弘
研究主事　鈴木　治
専攻科長・生産システム工学専攻主任　宮﨑　孝（留任）
海事システム学専攻主任　鈴木　治（留任）
商船学科長・機関コース主任　伊藤　友仁（留任）
航海コース主任　片岡　高志（留任）
電子機械工学科長　古森　郁尊
制御情報工学科長　江崎　修央
一般教育科長　冨澤　明
図書館長　岸川　良蔵（留任）
総合情報センター長　白石　和章
副総合情報センター長　脇坂　賢
副テクノセンター長　小川　伸夫（留任）
学生相談室長　鏡　ますみ
副学生相談室長　佐波　学
練習船運行委員長　松井　茂春
国際交流推進室長　橋爪　仙彦（留任）
入試広報室長　攪上　平之介（留任）
教務主事補　増山　裕之
学生主事補　山田　英生（留任）
寮務主事補　鎌田　功一（留任）

【職員】
○転入（高専間配置換含む）
総務課長　入吉（いりよし）　修（おさむ）（沼津高専学生課長）
総務課課長補佐（総務担当）（兼）人事労務係長　谷（たに）　仁（ひとし）（三重大学学務部入試チーム係長）
総務課課長補佐（財務担当）　伊藤（いとう）　玲子（れいこ）（三重大学施設部施設企画チーム係長）
総務課人事労務係人事労務主任　池田（いけだ）　真樹（まさき）（三重大学財務部契約チーム）

○採用
テクノセンター鳥羽丸甲板員　秋山（あきやま）　武彦（たけひこ）
学生課学生生活係技術補佐員　辻（つじ）　織世（おりよ）
テクノセンター再雇用職員　木下　利一

○昇任
総務課企画・地域連携係長　中村　健太郎（総務課調達係調達主任）
総務課調達係調達主任　德田　敬明（総務課企画・地域連携係）
学生課入試・支援係入試支援主任　髙橋　正人（学生課教務係）
テクノセンター鳥羽丸甲板長　世古　文彦（テクノセンター鳥羽丸操舵手）

○配置換等
学生課課長補佐　山本　敬児（総務課課長補佐（財務担当））
総務課財務・経理係長　小西　恵（総務課人事労務係長）
総務課図書係図書主任　北山　里見（総務課総務係総務主任）
総務課総務係　前川　堅太郎（総務課図書係）
学生課教務係　川合　洋平（学生課入試・支援係）
テクノセンター技術専門職員　村田　浩哉（テクノセンター鳥羽丸甲板長）
テクノセンター鳥羽丸操舵手　吉村　光竜（テクノセンター鳥羽丸甲板員）

（平成27年5月1日付け）
○採用
学生課教務係有期雇用職員　ブレイ　珠子（たまこ）

（平成27年6月29日付け）
○転出
三重大学施設部長付係長
← 秦　克之（総務課施設係長）

平成26年度卒業証書、修了証書授与式を挙行

平成27年３月２日（月）に本校第2体育館において、平成26年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに生産システム工学専攻修了証書授与式が挙行された。

藤田校長から一人ひとりに卒業証書、修了証書が授与され、来賓、保護者、教職員及び在校生から祝福を受けて、晴れやかに学窓を巣立っていった。

平成27年度　名誉教授称号授与式

平成27年5月14日（木）、名誉教授称号授与式が校長室にて執り行われた。
授与式では、新田保次校長から称号が授与された。

平成27年度　名誉教授　藤田稔彦
伊藤文雄

公開講座・出前授業実施

公開講座一覧　サイテクランド in 鳥羽商船

講　座　名　称	開　催　日　時
英文多読入門講座	8月　5日（水）　9:30～11:30
mini 水車を作って、水道水で発電しよう！	8月18日（火）　9:30～15:00
ソーラーで動くおもちゃ工作	8月19日（水）　9:30～12:00
いちごジャムでマイコンプログラミング	8月24日（月）　10:00～16:00
「ロボット×クラウドでプログラミング」	8月25日（火）　10:00～16:00
3D プリンタでオリジナルスマートフォンスタンドを作ってみよう	8月26日（水）　9:30～15:30

秋の公開講座

講　座　名　称	開　催　日　時
小学生のためのバレーボール教室	10月10日（土）　9:00～12:00

その他の講座

講　座　名　称	開　催　日　時
みえアカデミックセミナー	7月14日（火）　9:00～12:00
B & G オーシャン 'S キャンプ in 志摩半島	7月27日（月）～29日（水）
鳥羽商船高専の練習船に乗って造船所見学	7月24日（金）
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海（四日市港まつり）	8月2日（日）
みんなでたのしく遊ぼう！ロボット教室（池上地区青少年健全育成会）	10月
練習船「鳥羽丸」による名古屋港 PR 活動及び一般公開	11月7日（土）～8日（日）
もうすぐクリスマス遊んで学ぼう。商船学校の歴史と船と海の話	12月下旬

出前授業

体験型学習

講　座　名　称	担　当　学　科
機関士のしごと体験	商船学科・テクノセンター
物を冷やす仕組み	商船学科
オリジナル T シャツ・バッグ作成講座	電子機械工学科・制御情報工学科
食品の加熱って？ ー電気を利用したヒータの製作ー	商船学科
LEGO ロボットを作ろう（初級）	電子機械工学科・制御情報工学科
LEGO ロボットを作ろう（機械）	電子機械工学科
LEGO ロボットを作ろう（情報）	制御情報工学科
オリジナル下敷きを作ろう！	制御情報工学科

教養講座

講　座　名　称	担　当　学　科
トランシーバを使ってみよう	商船学科
日常で使えるロープワーク	商船学科
ものはどこからどのように運ばれてくるの？	商船学科

編集後記

学校だより第82号をお届け致します。
本号は、本校学生の国際交流やコンテストなどでの活躍を中心に、新任教員や教育・研究設備の紹介、主事・学科長による活動紹介など、盛りだくさんの内容でお送り致しております。
長い歴史を基に、社会の要請に応えて常に変化し続ける本校の今の姿をお伝えできれば幸いです。
本号におきましても、多くの方に記事をおよせ頂きました。有難うございました。　（山下記）

学校だより Vol.82
平成27年7月発行
独立行政法人国立高等専門学校機構　鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号　TEL 0599-25-8013　http://www.toba-cmt.ac.jp